

第4回

伝わるように伝える(3) ～ウェイトिंग～

介護の現場ではスタッフが先を急ぐあまりに、こんな場面を見かけることがあります。

ティータイムに、お茶が進まないご利用者を気にして、介護スタッフが「〇〇さん、お茶ですよ」と声をかけます。ところが、ご利用者は全く飲もうとしません。間髪入れずに再度、「お茶ですよ」。

…それでも反応がないのでスタッフはご利用者の口にお茶を運ぼうとします。すると、「なにをするの！」と怒り、手でふり払ってしまいました。

この時、ご利用者の頭の中の情報処理能力に配慮し、スタッフがすこし「待ってみる」と、意外と自分から飲み始めたりすることが少なからずあります。また、少し待ってみてから、声かけすることで、先ほどとはうってかわり、すんなりと飲んでくださることもよくあります。

「待つこと＝ウェイトिंग」により、

- ①ご利用者の意欲を引き出し、行動につなげる
- ②時間の経過がその場を仕切り直し、情報を伝わりやすくするなどの効果が期待できます。

介護者が「待つこと」ができず、結果的に声かけが執拗になったり、介助をし過ぎてしまうと、ご利用者の意欲や動きを制するだけでなく、自尊心まで傷つけてしまうこともあるので、注意が必要です。

ベテランのスタッフでも、短時間での介護の成立にこだわりすぎて失敗することがあります。そんな時は慌てず、「急がば待とう」の気持ちで臨みたいものです。



文責：施設長 山本 忠弘（認知症介護指導者・介護福祉士・介護支援専門員）

フェイスブックもご覧
ください！

三喜会のグループホーム・
デイサービスセンターの
日頃の様子を紹介。
あわせてご覧下さい。



医療法人社団 三喜会
グループホーム・デイサービスセンター青葉台

〒227-0054 横浜市青葉区しらとり台3-9

TEL. 045(981)6900 (グループホーム)

045(982)3200 (デイサービスセンター)